



令和7年3月発行

学校だより

北海道柔道整復専門学校

校長 當瀬 規嗣

北柔整同窓会の皆様におかれましては、道内各地においてご活躍のことと推察いたします。

昨年4月より、前任の加藤貞利先生のご勇退に伴い、附属北海道柔道整復専門学校の校長に就任いたしております。今後とも、同窓会員の皆様のご支援いただき、務めを果たしたく存じます。これまで、31年間、本校の生理学担当講師を続けておりましたので、多くの同窓会会員と在学中に指導し、交流がありました。これを機会に益々、交流を盛んにしたく存じます。

柔道整復術は、しっかりとした学問的背景をもつ、日本において欠くことのできない医療技術です。学問に基づく技術であるということは、学問の進化発展に基づいて柔道整復術も進化発展していかざるを得ないということです。北柔整同窓会会員の皆様には、本校に集積している知識技術を存分に利用していただき、日々切磋琢磨していただきたく存じます。

日本は高齢社会となり、若年人口は激減しました。社会では人手不足が深刻となっております。企業はIT技術を活用して何とか克服しようとしておりますが、今後も問題は深刻化していくものと考えられます。そして、この若年人口減少問題は大学、専門学校の存続に大きな影響を与えることとなりました。全国で定員割れの事態が頻発しており、やむを得ず、募集停止、閉校に至る学校も少なくない状況となっております。文部科学省も事態を重く見て、状況の改善に向けた政策を打ち出しておりますが、その効果は渺々しくありません。

本校も令和6年度から新入生募集を停止し、在校生も令和7年度末をもって、閉校することとなっております。同窓会会員の皆様には、大変申し訳なく存じます。もとより在校生の教育にいささかの遺漏もあってはなりません。在校生全員が無事、学業成って卒業することを、教員一丸となって全力を尽くしていく所存です。

今後とも、同窓会会員の皆様のご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

これからにむけて

3年生担任 吉田 英司

みなさんご卒業おめでとうございます。この学校での三年間はいかがでしたか？人数が少ない中でも、臨機応変に資格習得に向けて取り組み、適応してきたみなさんは素晴らしいと思います。これから病院や整骨院で勤務する人、他の医療従事資格を目指し進学する人、もしくはそれ以外のお仕事につく人もいるかと思えます。努力を継続したことを忘れず、新たな環境においても活躍できるよう自信をもって臨んでいってください。この学校で過ごした卒業生の皆さんが、自分の力を思う存分発揮し、前進し続けるよう期待しています。これからも頑張ってください。また、側には仲間がいる（いた）ことを忘れないでください。卒業後、どこかで再会した時も気兼ねなく声を掛け合ってください（僕も含めて・・・）。卒業後も繋がりががあると素敵ですね。そして、たまには元気に成長した姿を見せに来てください。

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

3年間で改めて振り返るととても濃く、こちらが色々な経験をさせてもらいました。本当にありがとうございました。今後は整骨院やデイサービス、整形外科と様々な道に進むと思いますが、みなさんの前向き精神で突き進んでいてください。応援しています。

産学連携講座に参加して

2年生 中嶋 力

今回の産学連携講座は、ジャイアンツのトレーナーで、OBの紙谷先生に来ていただきました。この講義で、プロチームで働くために重要なことや柔道整復師が活かせること、鍼灸師や理学療法士、作業療法士、アスレチックトレーナーなどが現場ではどんな役割かなどを教わりました。そして、野球で最も多い肩関節の障害では、普段の勉強では教わらないことを教えていただき、良い勉強になりました。貴重な機会をいただけてよかったです。



認定実技審査練習



認定実技審査練習



鏡開き 参段授与式



鏡開き



産学連携講座



産学連携講座